

ヨーロッパおよびオーストラリア産の地生ラン

磯部 実・世羅 徹哉

当園はラン科植物、特に原種及び貴重な園芸品種の収集保存に力を入れており、現在約260属1500 taxaを栽培保存している。しかし、ヨーロッパ産及びオーストラリア産の地生ランは一部の種を除いて入手困難であったためこれまでほとんど導入していなかった。1982年から1983年にかけて、これらの地生ランを新たに導入することができたので簡単に報告する。

導入した植物名、開花状況及び個体の生存状態は表1及び2に示すとおりである。開花は2月から5月にかけてであったが、*Pterostylis*属では、同一種でも個体によって開花期にかなりの差が見られた。また、この差は休眠開始及び成長開始にも引き続き現われた。

栽培は以下の要領で行った。

培養土は、ヨーロッパ産の種は全て、日向土（微小粒）：富士砂（小粒）＝1：1の混合土を用い、オーストラリア産の種は、各種とも半数の個体を水苔に、他の半数を日向土（微小粒）：富士砂（小粒）：山砂（みじんを除いた小粒）＝1：1：1の混合土に植え付けた。灌水は、*Pterostylis*属の種はやや多湿気味に行ない、他の属の種では、過湿にならないよう注意した。栽培温度は、最低10℃、最高25℃に調節した。ただし、ヨーロッパ産の各種は、3月以降高温のためと思われる腐れが生じたので無加温のフレームに移動した。開花後は徐々に水を控え、9月下旬までは温室内棚下で休眠させた。

生育状態は種や個体によってかなりの差が見られた。ヨーロッパ産の各種（特に *Orchis* 属）では、用土が軽いため、根の伸長に伴って株全体が培養土上に浮き上がるという問題があった。また、オーストラリア産のほとんどの種では、水苔植えの個体は比較的安定して生育、休眠したのに対し、混合土に植えた個体は、非常によく生育して繁殖したものがあ反面、枯死したものもあり、生育状態に著しい差が見られた。

表1 ヨーロッパ産地生ランの導入種と開花および生存状況

植物名	開花	枯死した株数
<i>Aceras anthropophorum</i>	○	1
<i>Dactylorhiza fuchsii</i>	○	1
<i>D. incarnata</i>		1
<i>D. praetormissa</i>		1
<i>Himantoglossum hircinum</i>		
<i>H. longibracteatum</i>		
<i>Neotinea maculata</i>		1
<i>Ophrys arachniformis</i>	○	
<i>O. bombyliflora</i>	○	
<i>O. fuciflora</i>	○	
<i>O. f.</i> ssp. <i>oxyrhynchos</i>		
<i>O. fusca</i>	○	
<i>O. exaltata</i>		
<i>O. lutea</i> ssp. <i>lutea</i>	○	
<i>O. l.</i> ssp. <i>minor</i>	○	
<i>O. speculum</i>	○	
<i>O. sphegodes</i> ssp. <i>lunulata</i>		1
<i>O. s.</i> ssp. <i>mamosa</i>		1
<i>O. tenthredinifera</i>	○	
<i>Orchis anatolica</i>		
<i>O. italica</i>		
<i>O. longicornu</i>		
<i>O. mascula</i>		2
<i>O. morio</i>	○	1
<i>O. m.</i> ssp. <i>picta</i>	○	
<i>O. papilionacea</i>	○	
<i>O. provincialis</i>	○	
<i>O. simia</i>	○	2
<i>O. tridentata</i>	○	
<i>O. t.</i> ssp. <i>lactea</i>	○	
<i>Serapias lingua</i>		
<i>S. parviflora</i>	○	1

※導入した2株中の数を示す。

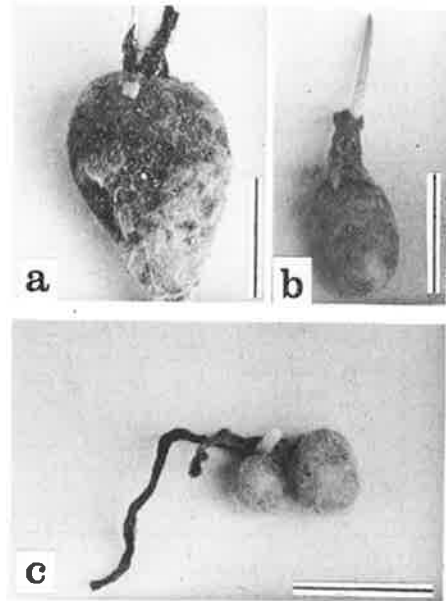


図1. ヨーロッパ産地生ランの塊茎
a: *Himantoglossum longibracteatum*
b: *Aceras anthropophorum*
c: *Ophrys bambyliflora*

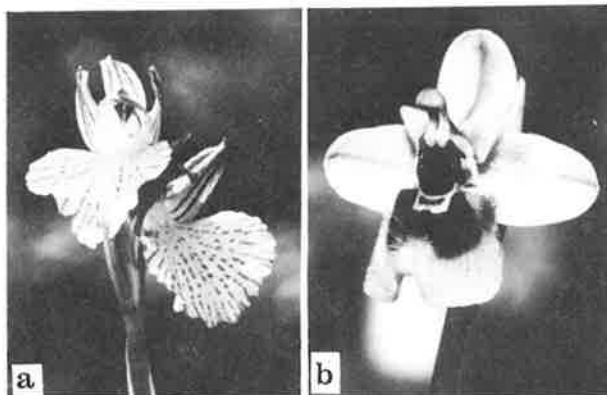


図2 ヨーロッパ産地生ラン
 a: *Orchis papilionacea*
 b: *Ophrys tenthredinifera*

表2 オーストラリア産地生ランの導入種と
 開花および生存状況

植 物 名	開 花	枯死 ※ した株数
<i>Acianthus exertus</i>	○	2
<i>A. reniformis</i>		3
<i>Caladenia menziesii</i>		
<i>C. latifolia</i>		
<i>Chiloglottis formicifera</i>	○	
<i>C. reflexa</i>	○	
<i>C. trapeziformis</i>		2
<i>Corybas diemenicus</i>		2
<i>Diuris longifolia</i>		
<i>D. maculata</i>		
<i>D. sulphrea</i>		
<i>Microtis uniflora</i>		2
<i>Pterostylis alata</i>		2
<i>P. baptistii</i>	○	
<i>P. concinna</i>	○	
<i>P. curta</i>	○	
<i>P. curta x nutans</i>	○	
<i>P. decurva</i>	○	
<i>P. falcata</i>	○	
<i>P. fishii</i>		
<i>P. xingens</i>	○	
<i>P. nana</i>	○	
<i>P. nutans</i>	○	
<i>P. ophioglossa</i>	○	
<i>P. o. var. collina</i>	○	
<i>P. pedunculata</i>		
<i>P. revoluta</i>	○	
<i>P. robusta</i>	○	
<i>P. toveyana</i>	○	
<i>P. truncata</i>	○	
<i>Thelymitra antenifera</i>		
<i>T. luteocilium</i>	○	
<i>T. pauciflora</i>	○	

※導入した5株中の数を示す。

以上の結果から、栽培の最適条件を決定することは困難であるが、オーストラリア産の種では水苔植えが無難であることがわかった。培養土については、今後組成を変えて試験栽培をし、最適なものを決めていきたいと思う。栽培温度については、新しい tuber (塊茎) が充実する時期に注意し、水分条件とも関連させて最適温度を決定する必要があると思われる。

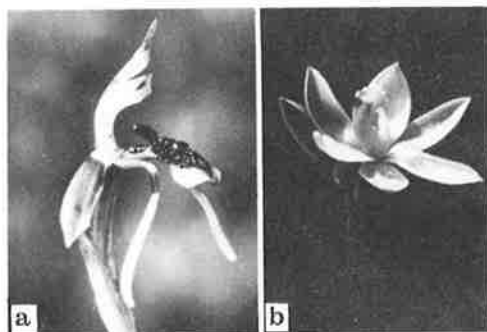


図3 オーストラリア産地生ラン
 a: *Chiloglottis reflexa*
 b: *Thelymitra luteocilium*

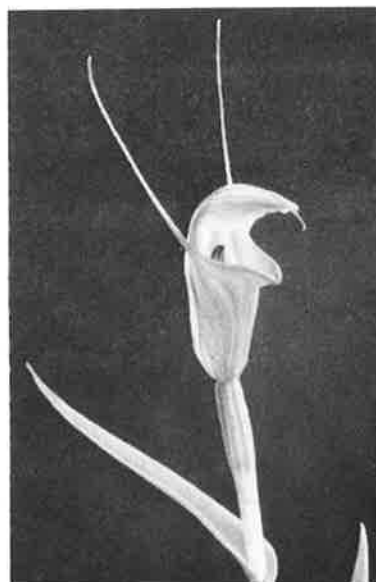


図4 オーストラリア産地生ラン
Pterostylis obtusa